学力向上に向けた現状分析と今後の目標（２０２２年度）

【坂本の学区】

坂本は大津市の北部に位置し、比叡山麓の一角の美しい琵琶湖が見える丘陵地にある。また、坂本学区は古くからの文化財、旧跡も多く、石積みの町としても有名である。四季それぞれに趣があり、訪れる観光客も多い。令和４年３月、坂本小学校は開校１４８年目を迎えた。児童数５３９名（令和４年１０月１日現在）

【学校教育目標】　心豊かに　たくましく

１自他を敬愛し、夢に向かって粘り強く努力する子どもを育てる
２生命を尊び、進んで身体を鍛える子どもを育てる
３基礎基本を身につけ、よく考える子どもを育てる
４ルールを守り、共に伸びようとする子どもを育てる

【本校の目指す教育】

□今年度の重点

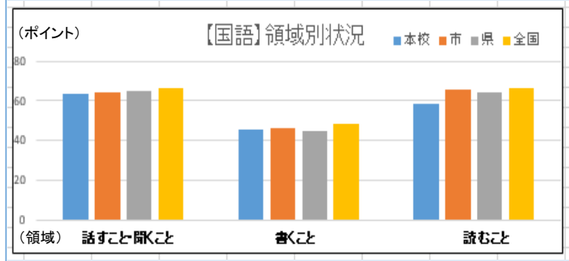
一人ひとりの可能性を伸ばす学校教育の推進

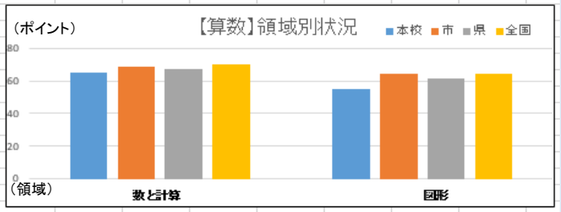
□おもな具体的取組

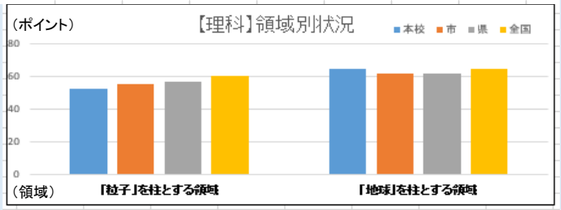
○個に応じた学びを伸ばす仕組みづくり
・学力定着状況に基づく学びの仕組みづくり
○坂小スタンダード授業の継承と発展
・条件設定で書く活動を繰り返す系統的ノート指導
○学びの基盤となる協働的課題解決能力を育て、読み解く力を高める道徳科、特別活動の充実（非認知スキル育成）
・学校全体で取り組み、継続的に積み上げる学級会の実践
○命を守る安全教育と体力向上
・体力の実態に基づいた授業の工夫
・命を守る安全教育の推進
○自己有用感のある学級・学年・学校
・いじめを無くす人権感覚の向上
・５つの心得（挨拶、はきもの、そうじ、時間、人）の徹底
○地域（社会）に開かれた教育
・コミュニティースクールと学校ボランティアの充実

全国学力・学習状況調査（2022 年４月 19 日　６年生を対象に実施）の結果

大津市立坂本小学校







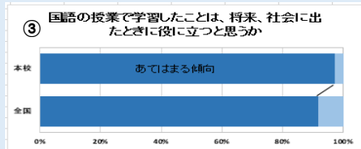
[学力調査の結果から見えてくる本校の現状]国語科においては、登場人物の行動や気持ちについて、叙述をもとに考える問題の正答率が全国平均をやや上回っている。近年、本校では読書活動に力を入れており、読書量についての質問紙調査【グラフ①】と、本校の過去の調査結果を比較した経年変化【グラフ②】から、毎日読書を10分以上する児童の割合が高く、長時間読書をする児童が増えてきていることからも、長い文章を読むことに対する抵抗感が減ってきているのではないかと考えられる。しかし、同じ「読むこと」の領域でも、物語から伝わってくることを考え、記述する問題などの正答率は全国、県、市の平均を下回っており、「書くこと」の領域でも、文章の良さを記述で表現する問題に苦手意識が見られた。本校は授業づくりにおいて、「自分の考えを書いて表現する活動」を大切にしている。普段から自分の考えを書いて表現する機会を増やすなど、さらに取り組みを進めて行く必要がある。また、読書活動をさらに充実させていくと共に、文章を読むことに対する抵抗を少なくするためにも、「読み優先の漢字学習」を進めていきたい。

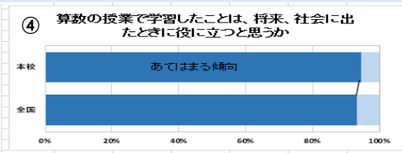
算数科においては、「数と計算」領域の基礎的な計算問題に関しては、全国、県、市の正答率を上回る高い正答率が見られた。しかし、最小公倍数を求める問題や、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題では全国、県、市をやや下回る正答率であったことから、当該学年の指導方法の検討と共に、基礎的な計算問題だけでなく、様々な問題形式に慣れていく学習活動も必要である。また、「図形」領域の正答率が、ここ数年全国、県、市よりも低いため、この領域についても、指導方法の再検討が必要である。

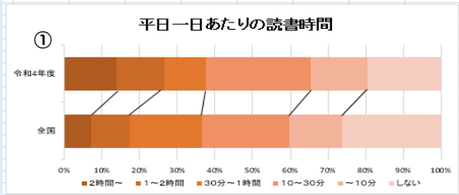
※「数と計算」…数のしくみや表し方、四則計算など　　「図形」…　平面・立体図形の性質・面積、体積など

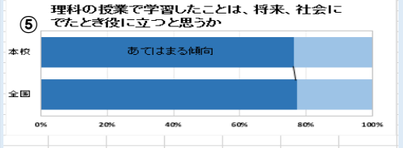
理科は、3年に1度程度の調査である。正答率は全国、県、市をやや下回った。器具の扱い方に関する問題や自分の考えを書く問題に関しては全国を上回る正答率であったが、器具の名称（メスシリンダー）を答える問題が全国の半分程度の正答率だったことと、実験の結果を基にその根拠を記述する問題の正答率がやや低かった。普段の授業の中で、観察や実験で得た結果を分析し、その内容を根拠として表現する場面を意図して設定するなどの工夫を今後も続けていきたい。

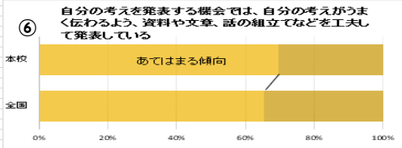
※「粒子」を柱とする領域…空気と水の性質、金属，水，空気と温度など　　「地球」を柱とする領域…天気の様子、変化など

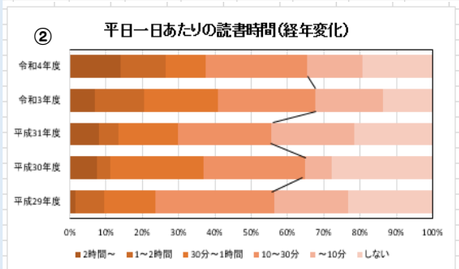


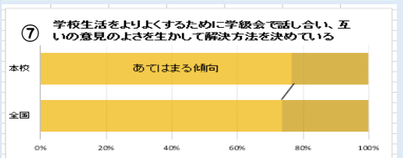


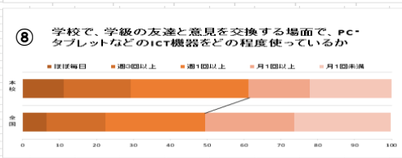


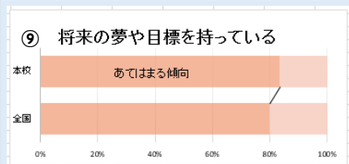


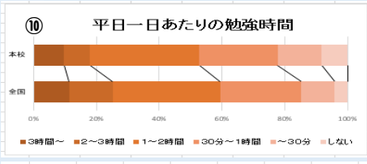


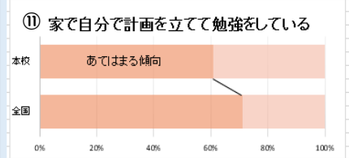


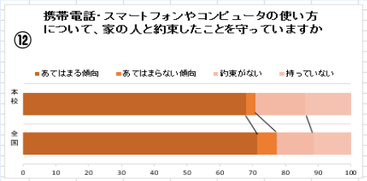












【質問紙調査から見えてくる本校の特徴（学習に関わること）】

・国語科、算数科に関しては「授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思うか」【グラフ③④⑤】の質問に対して、「そう思う」と答えた児童の割合が全国と比べて高いことから、前向きに学習に取り組んでいる児童が多いことが分かる。本校が進める「坂本小スタンダード学習」（全学年で共通した系統性学習スタイル）での授業展開が一定の効果を上げていると考えられる。ただ、理科に関しては全国平均より低く、今後、より前向きに学習に取り組める授業づくりを続けていきたい。

・「自分の考えを発表する機会では、工夫して発表している」【グラフ⑥】の質問も全国に比べて「そう思う」と答えた児童の割合が高かった。本校では学級活動（学級会）で学びの基礎となる話し合う力の向上と、子どもたち同士が意見を交わし、問題を解決する協働的な課題解決能力の育成にも力を入れている。その経験を通して、自信をもって発表できるという意識の高まりや、どんな意見でも受け入れてもらえるという安心できる学級づくりができつつあるということが考えられる（グラフ⑦）。

・GIGA スクール構想により、一人一台端末を利用しての学習がスタートしている。本校では、学習の補助としてだけではなく、児童の意見交換のツールとしての活用も進めており【グラフ⑧】、今後も続けていきたい。

[質問紙調査から見えてくる本校の特徴（生活に関わること）]

自分の将来に夢や目標を持っており、前向きに学校生活を送っている児童が多いことから、自尊感情や自己肯定感の高さがうかがえる【グラフ⑨】。このことを生かし、さらに主体的に学んだり、生活をより良くしたりしていこうとする態度を育てていきたい。また、全国平均に比べ、家庭学習の時間が短く、計画的に学習している児童の割合が少ない【グラフ⑩⑪】。今後、学校と家庭が連携をしながら、自分で学習を進める力をつけていきたい。また、オンライン学習の整備と共に、情報モラル学習の更なる充実も求められる【グラフ⑫】。この点に関しても学校と家庭が連携しながら取り組んでいきたい。

【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

〈学校での授業改善〉 ①「坂本小スタンダード学習」（全学年で共通した系統性学習スタイル）の継承・発展　②自ら進んで学べる学習環境づくり、個の課題に応じた習熟度学習システムの更なる充実（ICT の活用）
③語彙力を高め、正しくわかりやすい文章を書く力の育成　④文や図、グラフなどから必要な情報を読み解き、それらを整理し、理解し、発信する力の育成
〈家庭での学習環境改善〉 学習の習慣化（反復練習による学習内容の定着化　家庭学習の目安：学年×10分間　自主学習ノートや自主学習システムの活用　タブレットの持ち帰りによるオンライン学習）
〈学校・家庭・地域の改善〉 情報モラル学習の充実〈個人情報の保護・SNS の使い方等、ネット上でのトラブルを防ぐために〉　読書活動の推進　基本的生活習慣やルールの徹底